

カリキュラムの特色

愛知学院大学として

広く教養を身につけるとともに、専門教育の履修を通じて高度な知識・技術を修得することができるカリキュラムです。入学したときから、自分で主体的に関心を持って、4年間の一貫した学びの計画を立てることができ、学修意欲が向上するように学生が自ら進んで学びの内容を選択することができます。また、建学の精神に基づき、仏教精神、特に禪的教養を基本とする“行学一体”の理念に立って人格を陶冶し、人間関係の尊重に由来する“報恩感謝”を実践できる社会人を養成し、卒業した後に、その社会的責務を十全に果たしうる人材の養成を目的としています。

経営学部として

世の中が多様化し、個性を求められる時代です。単に経営学の知識を持っているだけでなく、豊かで鋭い感性、柔軟な思考力、挑戦できる創造力を持つ人材が求められています。それに応えるために、経営学部では、幅広い専門知識を自主的に学ぶことができると同時に、実践性を重視した学びができるようになっています。

経営学を初めて学ぶ者が経営についての多様な科目を自主的に選択することは難しいことです。そこで、系統的に体系だった学習ができるように履修のためのコース制を導入しています。

- ①幅広く多様な専門科目を配し、それらを「基礎科目」と「応用科目」に分けています。学生は選択の幅を持つと同時に、体系的に経営学を学ぶことができます。
- ②バラエティーに富んだ「応用科目」を体系的に選択できるように、履修コース制を導入しています。経営学科、現代企業学科それぞれに5コース設置されています。2013年度以降の入学生には、3つのコースが用意されています。その中から、自らの将来計画にしたがって履修コースを選択し、それを核にして学習計画をたててください。
- ③マネジメントの実践的側面の強化を目的として、「実習科目」を設置し、マネジメントの諸側面にわたる実習を行うのみならず、外部から企業経営者を講師として招くなどして、現場からの発想にもとづく生きた経営学を学ぶことができます。
- ④資料や情報を集め、それらをまとめ、報告するなどの経営学を学ぶための基礎的な力を身につけるための基礎演習科目があります。専門演習科目では、基礎演習科目で身につけた力をより深化させることができます。専門演習科目では、1つの深い専門分野を中心に少人数で議論ができ、学生同士の交流も深めることができます。

進級

(1)進級要件

経営学科(2007～2012年度入学生)および現代企業学科

「第3年次への進級に関する内規」(P.94参照)に基づき、2年次から3年次への進級に必要な単位数は48単位です。

2年次修了時点で卒業要件科目の内48単位以上修得した者は、修得科目に関わらず3年次へ進級できます。

1年次から2年次へ、3年次から4年次への進級要件はありませんので、自動的に進級します。

なお、1セメスター休学した場合でも次の学年に進級します。ただし、2セメスター連続して休学した場合は、原級にとどまります。

経営学科(2013年度以降入学生)

1年次から2年次への進級に際し、進級要件が設けられています。2年生への進級に必要な単位数は28単位です。1年次終了時点で卒業要件科目のうち28単位以上修得した者は、修得科目に関わらず2年次へ進級できます。

(2)進級時期

進級時期は、3月のみです。春学期修了時点で進級要件を充足しても年度途中に進級することはできません。

進級可能者は3月中旬にお知らせします。

(3)進級不可(留年)について

進級不可(留年)となった学生については、3月中旬に保証人宛に通知します。

(4)1年次の留学希望者について(2013年度以降入学生)

2013年度以降の入学生で1年次に海外への留学を希望する者は、進級と関わりがありますので、必ず事前に教務課窓口まで相談に来てください。

卒業

(1)卒業要件

大学を卒業するためには、以下の2点を満たさなければなりません。

①通算して4年(8セメスター)以上在学した者(休学期間は除く)。

②学則第8条に定められている所定の128単位(卒業に必要な単位数)を修得した者(詳細はP.32～43参照)。

注)4年次修了時点で上記の条件を満たしていなければ、128単位以上修得していても卒業することはできません。

(2)学位の授与

卒業要件を充足した者は、学則第37条により学士(経営学)の学位が授与されます。

(3)卒業時期

卒業時期は、3月または9月のいずれかです。

いずれの場合も要件を充足した場合は卒業となります。

①3月卒業

4年次秋学期修了時点で卒業要件を充足した者(上記「卒業要件」参照)。

卒業可能者は、3月上旬に保証人宛に通知します。

②9月卒業

4年次春学期時点で、4年(8セメスター)以上在学し、卒業要件を充足した者(上記「卒業要件」参照)。

卒業可能者は、9月中旬に保証人宛に通知します。

(4)卒業不可(留年)について

卒業不可(留年)となった学生については、3月上旬に保証人宛に通知します。

次年度以降の卒業に関する調査を行います。所定の用紙を履修登録期間までに教務課または名城公園キャンパス事務室へ提出してください。

カリキュラム概要

経営学科(2013年度以降入学生適用)

1 教養教育科目

○内数字 = 単位数
 = 必修科目

分野	卒業要件(36単位)		1年次	2年次	3年次	4年次	
	内訳	分野合計					
宗教学	4単位	4単位	宗教学Ⅰ②・宗教学Ⅱ②				
教養基幹科目		A 20単位 (注2)	教養セミナーⅠ①・Ⅱ①	教養セミナーⅢ①・Ⅳ①			
	人文系		4単位	心理学Ⅰ②・Ⅱ②、哲学Ⅰ②・Ⅱ②、論理学Ⅰ②・Ⅱ②、文学Ⅰ②・Ⅱ②、美術Ⅰ②・Ⅱ②			
	社会系		4単位	法学Ⅰ②・Ⅱ②、政治学Ⅰ②・Ⅱ②、社会学Ⅰ②・Ⅱ②、教育学Ⅰ②・Ⅱ②、歴史学Ⅰ②・Ⅱ②、地理学Ⅰ②・Ⅱ②			
	自然系		4単位	数学Ⅰ②・Ⅱ②、統計学Ⅰ②・Ⅱ②、物理学Ⅰ②・Ⅱ②、化学Ⅰ②・Ⅱ②、生物学Ⅰ②・Ⅱ②			
	主題系		4単位	仏教と現代社会Ⅰ②・Ⅱ②、禅と人間Ⅰ②・Ⅱ②、生命に関する諸問題Ⅰ②・Ⅱ②、人間行動の理解Ⅰ②・Ⅱ②、人間の尊厳と平等Ⅰ②・Ⅱ②、日本の文化と社会Ⅰ②・Ⅱ②、アジアの文化と社会Ⅰ②・Ⅱ②、ヨーロッパの文化と社会Ⅰ②・Ⅱ②、英語圏の文化と社会Ⅰ②・Ⅱ②、人間と環境Ⅰ②・Ⅱ②、情報と社会Ⅰ②・Ⅱ②、産業と科学Ⅰ②・Ⅱ②、ソフトウェア概論Ⅰ②・Ⅱ②、健康の科学②			
外国語科目(注1)	第1外国語	6単位	英語Ⅰa①・Ⅱa①、英語Ⅰb①・Ⅱb①				
	第2外国語	独・中・仏・韓国語の中から2単位	ドイツ語Ⅰ①・Ⅱ①、中国語Ⅰ①・Ⅱ①、フランス語Ⅰ①・Ⅱ①、韓国語Ⅰ①・Ⅱ①				
	文化事情	独・中・仏・韓国文化事情の中から2単位	ドイツ文化事情②、中国文化事情②、フランス文化事情②、韓国文化事情②				
健康総合科学科目	2単位	2単位	スポーツ科学Ⅰ①・Ⅱ①				
	◎へ算入		スポーツ科学Ⅲ①・Ⅳ①				
外国語科目	エレクトティブ	◎へ算入	【英語】 英会話Ⅰ①・Ⅱ①、メディア英語Ⅰ①・Ⅱ①、英語表現Ⅰ①・Ⅱ①、英語読解Ⅰ①・Ⅱ①、実践英語Ⅰ①・Ⅱ① 【ドイツ語】 ドイツ語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)① 【中国語】 中国語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)① 【フランス語】 フランス語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)① 【韓国語】 韓国語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)①				
			【英語】 英会話Ⅲ①・Ⅳ①、メディア英語Ⅲ①・Ⅳ①、英語表現Ⅲ①・Ⅳ①、英語読解Ⅲ①・Ⅳ①、実践英語Ⅲ①・Ⅳ① 【ドイツ語】 ドイツ語Ⅲ(読解)①・Ⅳ(読解)①、ドイツ語Ⅲ(表現)①・Ⅳ(表現)①、ドイツ語Ⅲ(総合)①・Ⅳ(総合)①、ドイツ語会話Ⅰ①・Ⅱ① 【中国語】 中国語Ⅲ(読解)①・Ⅳ(読解)①、中国語Ⅲ(表現)①・Ⅳ(表現)①、中国語Ⅲ(総合)①・Ⅳ(総合)①、中国語会話Ⅰ①・Ⅱ① 【フランス語】 フランス語Ⅲ(読解)①・Ⅳ(読解)①、フランス語Ⅲ(表現)①・Ⅳ(表現)①、フランス語Ⅲ(総合)①・Ⅳ(総合)①、フランス語会話Ⅰ①・Ⅱ① 【韓国語】 韓国語Ⅲ(読解)①・Ⅳ(読解)①、韓国語Ⅲ(表現)①・Ⅳ(表現)①、韓国語Ⅲ(総合)①・Ⅳ(総合)①、韓国語会話Ⅰ①・Ⅱ①				
海外事情科目	◎へ算入		海外事情Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②				
自由選択科目	卒業要件単位に算入されない		キャリア・デザイン② ※ サービスラーニング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ各①、課題解決型演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ各②、地域連携学A・B・C・D各② ※ 長期インターンシップ④				

※2015年度以降入学生のみ履修可能
 (詳細についてはP.82・83を参照)

カリキュラム概要

2 専門教育科目

○内数字 = 単位数
 = 必修科目

分野	卒業要件 (76単位)	1年次	2年次	3年次	4年次
基礎科目	20単位以上 修得	経営入門Ⅰ②・経営入門Ⅱ② 経営と情報Ⅰ②・経営と情報Ⅱ②、初級簿記Ⅰ②・初級簿記Ⅱ② 会計学入門Ⅰ②・会計学入門Ⅱ②、生産管理論Ⅰ②、生産管理論Ⅱ②、 マーケティング管理論Ⅰ②・マーケティング管理論Ⅱ②、人事管理論Ⅰ②、人事管理論Ⅱ②			
応用科目	48単位 以上 修得 コース選択科目 の中から 12単位以上修得 * 専門教育科目 一覧参照 (P. 34・35)	中級簿記Ⅰ②・中級簿記Ⅱ②、特別経営講座A・B・C・D・E 各② 経営科学Ⅰ②・Ⅱ②、イノベーション論②、コミュニケーション論② 環境ビジネス論②、経営環境論②、企画論②、事業計画論②、企業倫理② コーポレート・ガバナンス②、金融論②、国際金融論②、経営工学② ロジスティクス論②、経営心理学Ⅰ②・Ⅱ②、経営戦略Ⅰ②・Ⅱ②、経営統計Ⅰ②・Ⅱ② リーダーシップ論②、モチベーション論②、原価計算Ⅰ②・Ⅱ② 現代経済学A②・B②、国際経営論Ⅰ②・Ⅱ②、国際マーケティング論② 多国籍企業論②、サービスマネジメント②、財務管理論Ⅰ②・Ⅱ② 上級簿記Ⅰ②・Ⅱ②、プログラミングⅠ②・Ⅱ②、財政学A②・B②、国際貿易論A②・B② 中小企業経営論②、中小企業事例研究②、データベースⅠ②・Ⅱ② ベンチャービジネス論②、企業経営特論A・B・C・D各②、国際コミュニケーションⅠ②・Ⅱ② バーチャルカンパニーⅠA②・ⅠB② 会計監査②、ファイナンス分析②、管理会計Ⅰ②・Ⅱ② グローバル戦略論②、国際会計論Ⅰ②・Ⅱ②、NPO経営論② 財務会計Ⅰ②・Ⅱ②、財務諸表分析②、組織論Ⅰ②・Ⅱ② ベンチャービジネス実践研究②、マーケティング戦略論Ⅰ②・Ⅱ②、 バーチャルカンパニーⅡA②・ⅡB②、労働経済学A②・B②			
		民法②、会社法②、税法②、中部経済論②、公共経営論②、地域ビジネス論② エリア・リサーチA・B・C各②			
演習・外国 語科目	2単位以上 修得	基礎演習② ビジネス英語Ⅰ②・Ⅱ②、海外体験演習② ビジネス英語Ⅲ②・Ⅳ② 専門演習Ⅰ② 専門演習Ⅱ②・Ⅲ② 専門演習Ⅳ②・Ⅴ②、卒業論文④			
実習科目	4単位以上 修得	情報リテラシーⅠ①・Ⅱ① 経営管理実習ⅠA・B・C・D各①、ビジネス・ゲーム実習A①・B① 経営管理実習ⅡA・B・C・D各①			
キャリア・ デザイン科目	◎へ算入	キャリア・デザインⅠ②・Ⅱ②、基礎経営実務⑥ キャリア・デザインⅢ②・Ⅳ②、ビジネス能力②、インターンシップ② キャリア・デザインⅤ②・Ⅵ②			
◎22単位		「基礎科目」から「実習科目」の中で必要最低単位数を超えた単位			

3 グレーゾーン

必要単位数 ◎ 16 単位	a. 「教養教育科目」または「専門教育科目」で必要最低単位数を超えた単位 b. 教養教育科目の「スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ」「外国語科目(エレクトティブ)」「海外事情」 c. 他学部・他学科科目(注4) e. 単位互換科目(単位互換A～Z)
------------------	---

卒業要件単位 合計 ①+②+③=128単位

- (注1) 外国人留学生の外国語科目の履修についてはP.10を参照してください。
 (注2) 「人文系」「社会系」「自然系」「主題系」で修得した単位の内、必要最低単位数を超えた単位はA→Cの順で算入される。
 (注3) 基礎経営実務については、P.27を参照してください。
 (注4) 他学部・他学科科目で修得した24単位の内、16単位までは◎に、残りの8単位は③にそれぞれ算入される。他学部・他学科科目のうち地域連携科目の詳細についてはP.82・83を参照してください。

コース制(2013年度以降入学生対象)

コース指定科目一覧

経営学科コース(2013年度以降入学生適用)

分野	授業科目名	単位数	開講学年	コース			卒業要件		
				組織 マネジメント	生産 マーケティング	会計			
基礎 科目	経営入門Ⅰ	2	1~4	●	●	●	20 単 位 以 上 修 得		
	経営入門Ⅱ	2	1~4	●	●	●			
	会計学入門Ⅰ	2	2~4						
	会計学入門Ⅱ	2	2~4						
	経営と情報Ⅰ	2	1~4						
	経営と情報Ⅱ	2	1~4						
	初級簿記Ⅰ	2	1~4						
	初級簿記Ⅱ	2	1~4						
	生産管理論Ⅰ	2	2~4						
	生産管理論Ⅱ	2	2~4						
	マーケティング管理論Ⅰ	2	2~4						
	マーケティング管理論Ⅱ	2	2~4						
応用 科目 Ⅰ 群	人事管理論Ⅰ	2	2~4				コ ー ス 選 択 科 目 の 中 か ら 12 単 位 以 上	基 礎 科 目 ・ 応 用 科 目 Ⅰ 群 ・ Ⅱ 群 か ら 48 単 位	基 礎 科 目 か ら 実 習 科 目 の 中 で 76 単 位 以 上 修 得
	人事管理論Ⅱ	2	2~4						
	経営科学Ⅰ	2	2~4	○	○	○			
	経営科学Ⅱ	2	2~4	○	○	○			
	イノベーション論	2	2~4	○	○				
	コミュニケーション論	2	2~4	○					
	環境ビジネス論	2	2~4	○	○				
	経営環境論	2	2~4	○					
	会計監査	2	3・4			○			
	ファイナンス分析	2	3・4			○			
	管理会計Ⅰ	2	3・4			○			
	管理会計Ⅱ	2	3・4			○			
	企画論	2	2~4	○	○				
	事業計画論	2	2~4	○					
	企業倫理	2	2~4	○					
	コーポレート・ガバナンス	2	2~4	○					
	金融論	2	2~4			○			
	国際金融論	2	2~4			○			
	グローバル戦略論	2	3・4		○				
	経営工学	2	2~4		○				
	ロジスティクス論	2	2~4		○				
	経営心理学Ⅰ	2	2~4						
	経営心理学Ⅱ	2	2~4						
	経営戦略Ⅰ	2	2~4	○	○				
	経営戦略Ⅱ	2	2~4	○	○				
	経営統計Ⅰ	2	2~4	○	○	○			
	経営統計Ⅱ	2	2~4	○	○	○			
	リーダーシップ論	2	2~4	○					
	モチベーション論	2	2~4	○					
	原価計算Ⅰ	2	2~4			○			
	原価計算Ⅱ	2	2~4			○			
	現代経済学A	2	2~4						
	現代経済学B	2	2~4						
	国際会計論Ⅰ	2	3・4			○			
	国際会計論Ⅱ	2	3・4			○			
	国際経営論Ⅰ	2	2~4		○				
	国際経営論Ⅱ	2	2~4		○				
	国際マーケティング論	2	2~4		○				
	国際コミュニケーションⅠ	2	2~4						
	国際コミュニケーションⅡ	2	2~4						
	多国籍企業論	2	2~4		○				
	サービスマネジメント	2	2~4	○	○				
NPO経営論	2	3・4	○						
財務会計Ⅰ	2	3・4			○				
財務会計Ⅱ	2	3・4			○				
財務管理論Ⅰ	2	2~4			○				
財務管理論Ⅱ	2	2~4			○				
財務諸表分析	2	3・4			○				
上級簿記Ⅰ	2	2~4			○				
上級簿記Ⅱ	2	2~4			○				
プログラミングⅠ	2	2~4	○	○	○				
プログラミングⅡ	2	2~4	○	○	○				
組織論Ⅰ	2	3・4	○						
組織論Ⅱ	2	3・4	○						

●…必修科目
○…コース選択科目

コース制(2013年度以降入学生対象)

分野	授業科目名	単位数	開講学年	コース			卒業要件	
				組織 マネジメント	生産 マーケティング	会計		
応用科目I群	中級簿記I	2	1~4			○	基礎科目・応用科目I群・II群から48単位 コース選択科目の中から12単位以上	基礎科目から実習科目の中で76単位以上修得
	中級簿記II	2	1~4			○		
	中小企業経営論	2	2~4		○			
	中小企業事例研究	2	2~4		○			
	データベースI	2	2~4	○	○	○		
	データベースII	2	2~4	○	○	○		
	ベンチャービジネス実践研究	2	3~4	○				
	ベンチャービジネス論	2	2~4	○				
	マーケティング戦略論I	2	3~4		○			
	マーケティング戦略論II	2	3~4		○			
	企業経営特論A	2	2~4					
	企業経営特論B	2	2~4					
	企業経営特論C	2	2~4					
	企業経営特論D	2	2~4					
	バーチャルカンパニーIA	2	2~3	○	○			
	バーチャルカンパニーIB	2	2~3	○	○			
	バーチャルカンパニーIIA	2	3~4	○	○			
	バーチャルカンパニーIIB	2	3~4	○	○			
	特別経営講座A	2	1~4					
	特別経営講座B	2	1~4					
	特別経営講座C	2	1~4					
	特別経営講座D	2	1~4					
	特別経営講座E	2	1~4					
	財政学A	2	2~4					
	財政学B	2	2~4					
	国際貿易論A	2	2~4					
国際貿易論B	2	2~4						
労働経済学A	2	2~4						
労働経済学B	2	2~4						
応用科目II群	民法	2	2~4					
	会社法	2	2~4					
	税法	2	2~4					
	中部経済論	2	2~4					
	公共経営論	2	2~4					
	地域ビジネス論	2	2~4					
	エリア・リサーチA	2	2~4					
エリア・リサーチB	2	2~4						
エリア・リサーチC	2	2~4						
演習・外国語科目	基礎演習	2	2~4	●	●	●	2単位以上修得	
	専門演習I	2	2					
	専門演習II	2	3					
	専門演習III	2	3					
	専門演習IV	2	4					
	専門演習V	2	4					
	卒業論文	4	4					
	ビジネス英語I	2	2~4					
	ビジネス英語II	2	2~4					
	ビジネス英語III	2	3~4					
ビジネス英語IV	2	3~4						
実習科目	情報リテラシーI	1	1~4				4単位以上修得	
	情報リテラシーII	1	1~4					
	経営管理実習IA	1	2~4					
	経営管理実習IB	1	2~4					
	経営管理実習IC	1	2~4					
	経営管理実習ID	1	2~4					
	経営管理実習IIA	1	3~4					
	経営管理実習IIB	1	3~4					
	経営管理実習IIC	1	3~4					
	経営管理実習IID	1	3~4					
ビジネス・ゲーム実習A	1	2~4						
ビジネス・ゲーム実習B	1	2~4						
キャリア・デザイン科目	キャリア・デザインI	2	1~4				グレイゾンで 単位認定	
	キャリア・デザインII	2	1~4					
	キャリア・デザインIII	2	1~4					
	キャリア・デザインIV	2	1~4					
	キャリア・デザインV	2	2~4					
	キャリア・デザインVI	2	2~4					
	ビジネス能力	2	2~4					
	インターンシップ	2	2~4					
基礎経営実務	6	1~4						

カリキュラム概要

現代企業学科(2008年度以降入学生適用)

1 教養教育科目

○内数字 = 単位数
 □ = 必修科目

分野	卒業要件(36単位)		1年次	2年次	3年次	4年次	
	内訳	分野合計					
宗教学	4単位	4単位	宗教学Ⅰ②・宗教学Ⅱ②				
教養基礎科目		④ 16単位 (注2)	教養セミナーⅠ①・Ⅱ①		教養セミナーⅢ①・Ⅳ①		
	人文系		4単位	心理学Ⅰ②・Ⅱ②、哲学Ⅰ②・Ⅱ②、論理学Ⅰ②・Ⅱ②、文学Ⅰ②・Ⅱ②、美術Ⅰ②・Ⅱ②			
	社会系		4単位	法学Ⅰ②・Ⅱ②、政治学Ⅰ②・Ⅱ②、社会学Ⅰ②・Ⅱ②、教育学Ⅰ②・Ⅱ②、歴史学Ⅰ②・Ⅱ②、地理学Ⅰ②・Ⅱ②			
	自然系		4単位	数学Ⅰ②・Ⅱ②、統計学Ⅰ②・Ⅱ②、物理学Ⅰ②・Ⅱ②、化学Ⅰ②・Ⅱ②、生物学Ⅰ②・Ⅱ②			
主題科目	人間と社会	4単位	総合科目Ⅰ-I②・Ⅱ②、総合科目Ⅱ-I②・Ⅱ②、総合科目Ⅲ-I②・Ⅱ②、特定主題科目Ⅰ-I②・Ⅱ②、特定主題科目Ⅱ-I②・Ⅱ②				
	文化と社会		特定主題科目Ⅲ-I②・Ⅱ②、特定主題科目Ⅳ-I②・Ⅱ②、特定主題科目Ⅴ-I②・Ⅱ②、特定主題科目Ⅵ-I②・Ⅱ②				
	生活と情報		総合科目Ⅳ-I②・Ⅱ②、総合科目Ⅴ-I②・Ⅱ②、総合科目Ⅵ-I②・Ⅱ②、特定主題科目Ⅵ-I②・Ⅱ②				
外国語科目(注1)	第1外国語	6単位	英語Ⅰa①・Ⅱa①、英語Ⅰb①・Ⅱb① 英語Ⅰc①・Ⅱc①				
	第2外国語	独・中・仏・韓国語の中から2単位	ドイツ語Ⅰ①・Ⅱ①、中国語Ⅰ①・Ⅱ①、フランス語Ⅰ①・Ⅱ①、韓国語Ⅰ①・Ⅱ①				
	文化事情	独・中・仏・韓国文化事情の中から2単位	ドイツ文化事情②、中国文化事情②、フランス文化事情②、韓国文化事情②				
健康総合科学科目	2単位	2単位	スポーツ科学Ⅰ①・Ⅱ①				
	◎へ算入		スポーツ科学Ⅲ①・Ⅳ①、健康総合論②				
外国語科目	エレクトイブ	◎へ算入	【英語】 英会話Ⅰ①・Ⅱ①、実践英語Ⅰ①・Ⅱ①、メディア英語Ⅰ①・Ⅱ①、英語表現法Ⅰ①・Ⅱ①、英語読解法Ⅰ①・Ⅱ① 【ドイツ語】 ドイツ語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)① 【中国語】 中国語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)① 【フランス語】 フランス語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)① 【韓国語】 韓国語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)①				
			【英語】 英会話Ⅲ①・Ⅳ①、実践英語Ⅲ①・Ⅳ①、メディア英語Ⅲ①・Ⅳ①、英語表現法Ⅲ①・Ⅳ①、英語読解法Ⅲ①・Ⅳ① 【ドイツ語】 ドイツ語Ⅲa(読解)①・Ⅳa(読解)①、ドイツ語Ⅲb(表現)①・Ⅳb(表現)①、ドイツ語Ⅲc(総合)①・Ⅳc(総合)①、ドイツ語会話Ⅰ①・Ⅱ① 【中国語】 中国語Ⅲa(読解)①・Ⅳa(読解)①、中国語Ⅲb(表現)①・Ⅳb(表現)①、中国語Ⅲc(総合)①・Ⅳc(総合)①、中国語会話Ⅰ①・Ⅱ① 【フランス語】 フランス語Ⅲa(読解)①・Ⅳa(読解)①、フランス語Ⅲb(表現)①・Ⅳb(表現)①、フランス語Ⅲc(総合)①・Ⅳc(総合)①、フランス語会話Ⅰ①・Ⅱ① 【韓国語】 韓国語Ⅲa(読解)①・Ⅳa(読解)①、韓国語Ⅲb(表現)①・Ⅳb(表現)①、韓国語Ⅲc(総合)①・Ⅳc(総合)①、韓国語会話Ⅰ①・Ⅱ①				
海外事情科目	◎へ算入		海外事情Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②				
自由選択科目	卒業要件単位に算入されない		キャリア・デザイン②				

カリキュラム概要

2 専門教育科目

○内数字 = 単位数
 = 必修科目

分野	卒業要件 (76単位)	1年次	2年次	3年次	4年次
基礎科目	20単位以上 修得	経営学原理Ⅰ②・経営学原理Ⅱ②			
		経営情報入門Ⅰ②・経営情報入門Ⅱ②、初級簿記Ⅰ②・初級簿記Ⅱ②			
応用科目	⑧30単位以上 修得	会計学原理Ⅰ②・Ⅱ②、生産管理論Ⅰ②・Ⅱ②、マーケティング管理論Ⅰ②・Ⅱ② 労務管理論Ⅰ②・Ⅱ②			
		中級簿記Ⅰ②・中級簿記Ⅱ②			
		企画論②、事業計画論②、企業倫理②、金融論②、国際金融論②、経営戦略Ⅰ②・Ⅱ②、 経営統計Ⅰ②・Ⅱ②、原価計算Ⅰ②・Ⅱ②、現代経済学A②・B②、国際経営論Ⅰ②・Ⅱ②、 国際マーケティング論②、財務管理論Ⅰ②・Ⅱ②、上級簿記Ⅰ②・Ⅱ②、情報処理Ⅰ②・Ⅱ②、 データベースⅠ②・Ⅱ②、民法Ⅰ②・Ⅱ②、経営心理学Ⅰ②・Ⅱ② NPO経営論②、サービスマネジメント②、意思決定A②・B②、 イノベーション戦略論②、経営コミュニケーション論②、 環境ビジネス論②、経営環境論②、監査論Ⅰ②・Ⅱ②、管理会計Ⅰ②・Ⅱ② グローバル戦略論Ⅰ②・Ⅱ②、経営工学②、ロジスティクス論② 経営シミュレーションⅠ②・Ⅱ②、経営リーダーシップ論② モチベーション論②、コーポレート・ガバナンス②、国際会計論Ⅰ②・Ⅱ② 国際コミュニケーションⅠ②・Ⅱ②、財務会計Ⅰ②・Ⅱ②、財務諸表分析②、 組織間関係論②、組織論②、多国籍企業論②、中小企業経営論②、 中小企業事例研究②、ビジネスデザインⅠ②・Ⅱ②、 ベンチャー・ビジネス実践研究②、ベンチャー・ビジネス論②、 マーケティング戦略論Ⅰ②・Ⅱ②			
国際コミュニケーションⅢ②・Ⅳ②					
企業経営特論A・B・C 各②					
演習科目	6単位以上 修得	基礎演習Ⅰ②・基礎演習Ⅱ②			
		基礎演習Ⅲ②			
		専門演習Ⅰ②			
		専門演習Ⅱ②・Ⅲ②			
		専門演習Ⅳ②・Ⅴ②、卒業論文④			
実習科目	4単位以上 修得	情報リテラシーⅠ①、情報リテラシーⅡ①			
		情報リテラシーⅢA・B・C・D 各①、ビジネス能力①			
		経営管理実習A・B・C・D・E・F 各①			
企業事情科目	◎へ算入	特別経営講座A・B・C 各②、基礎経営実務⑥(注3)、インターンシップ②			
16単位		「基礎科目」から「実習科目」の中で必要最低単位数を超えた単位			

3 グレーゾーン

必要単位数 ◎ 16 単位	a. 「教養教育科目」または「専門教育科目」で必要最低単位数を超えた単位 b. 教養教育科目の「スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ」「健康総合論」「外国語科目(エレクトティブ)」「海外事情」 c. 他学部・他学科科目(注4) d. 企業事情科目 ※12単位まで卒業要件単位に算入される e. 単位互換科目(単位互換A～Z)
------------------	---

卒業要件単位 合計 ①+②+③=128単位

- (注1) 外国人留学生の外国語科目の履修についてはP.10を参照してください。
 (注2) 「人文系」「社会系」「自然系」で修得した単位の内、必要最低単位数を超えた単位は④→③の順で算入される。
 (注3) 基礎経営実務については、P.27を参照してください。
 (注4) 他学部・他学科科目で修得した24単位の内、16単位までは◎に、残りの8単位は⑧にそれぞれ算入される。

授業科目の概要

教養教育科目

経営学部共通

教養教育科目の理念と目標

教養教育では、「学生一人ひとりの人間性を尊重しつつ、豊かな教養と高い品位を兼ね備えた人間の育成を目指す」という理念のもとに、大学教育の土台となる「基礎学力の育成」、ならびに多様な価値観と深い洞察力を育成する「リベラル・アーツの修得」を柱として、多彩な科目を開講しています。学生の皆さんが将来豊かな教養を兼ね備えた人材として社会に貢献できることを目指します。

宗教学

「建学の精神」に基づいて、宗教、特に禅・仏教を学びます。そこには「人間の弱さや愚かさ、強さや素晴らしさ」についての豊かな洞察が含まれています。

授業は、共通のテキストを用いた講義が中心ですが、各担当教員は視聴覚教材を活用するなど、独自の工夫を凝らしています。また、年1、2回「坐禅の体験実習」も行います。

この科目を通して「生きること」「信じること」の意味について考えてみましょう。

○宗教学Ⅰ・Ⅱは必修科目ですので4単位を修得する必要があります。

教養セミナー「学問の発見」

高校までの受動的な学習形態を能動的な形へ転換させ、大学での基本的な学習姿勢を教授するための科目です。本授業では、「学問の発見」という共通のテーマのもとに、担当教員が工夫を凝らした、様々な授業が用意されています。皆さんの興味・関心に合わせて授業が選択できるようになっており、レポートの書き方など、スタディスキルも扱いながら、少人数のセミナー形式で授業が行われます。また、本授業の担当者は、1、2年次のアドバイザーとなり、授業以外にも、履修指導、その他、学生生活全般において皆さんをサポートします。

○アドバイザーについてはP.72を参照してください。

○1年次生は、必ず教養セミナー「学問の発見」Ⅰ・Ⅱを履修してください。

○2年次生以上で引き続き、教養セミナーを履修したい学生は、教養セミナー「学問の発見」Ⅲ・Ⅳを履修してください。

注)教養セミナー「学問の発見」Ⅰ・Ⅱは1年次生しか履修できません。

教養基幹科目

教養基幹科目は教養セミナー「学問の発見」と人文系・社会系・自然系・主題系^{注)}の各科目からなっています。人文系・社会系・自然系科目では、専門教育に不可欠な広い視野と学問領域にとらわれない広範な教養、そして豊かな人間性の育成を目標としています。総合大学としてのメリットを最大限に生かし、幅広い学問領域をカバーする多彩な科目でカリキュラムを構成すると共に、教養セミナー「学問の発見」での教員との出会いを通して、新入生が大学に溶け込みやすいように工夫しています。主題系科目においては、学際的で広い領域の中からテーマを設定し、それぞれの主題について総合的な理解を深めるために複数の教員が担当する授業や、特定のテーマについてより深く掘り下げて学ぶ授業が行われます。

○人文系・社会系・自然系・主題系科目は各分野で4単位ずつ、さらに教養基幹科目全体の中から(教養セミナー含む)4単位、最低でも合計で20単位を修得する必要があります。

注) 2012年度以前入学生については、以下のとおりとします。

教養基幹科目主題系の各科目は、主題科目として開講します。ただし、「健康の科学」は健康総合科学科目の「健康総合論」として開講します。

授業科目の概要

教養教育科目

経営学部共通

外国語科目

①第1外国語【英語】

英語は、アメリカ・イギリスなどの英語圏で話されているだけでなく、母語の異なる人たちの間の共通語としても用いられているなど、国際化が進展する今日の社会において、その重要性はますます高まりつつあります。

英語カリキュラムは、現代社会において必要な英語コミュニケーション能力の育成を図ることを目的としており、コア(必修科目)とエレクトィブ(選択科目)からなっています。

コアにおいては、読む・書く・聴く・話すという4技能の養成を図ります。これら4技能をバランスよく修得することは、すべての語学学習にとって必要不可欠です。

○第1外国語(英語)は、希望したコースに基づいてクラス分けが行われます。

クラス分けの結果とコースは最初の授業までに発表します。

○科目名のアルファベットは以下の内容を表しています。

a - Listening ComprehensionとOral Communication

b - Reading

c - Writing

○英語は必修科目であり、1年次では英語Ia・IIa・Ib・IIb 4単位、2年次では英語Ic・IIc 2単位、合計6単位を修得する必要があります。

○各開講年次で修得できなかった者は、時間割表に(未修得者)と表示されている科目の中から履修してください。

②第2外国語【ドイツ語・中国語・フランス語・韓国語】(2006年度以降入学生)

第2外国語は、ドイツ語・中国語・フランス語・韓国語が開講されています。国際化が叫ばれる中で、多様な世界を知り、それを理解するためには、英語以外の外国語を学習することも大切です。異文化への理解を深め、国際人として通用する教養を養うために、積極的に第2外国語の学習に取り組んでください。選択必修科目ですので、1年次にドイツ語・中国語・フランス語・韓国語の中から1言語を選択して履修することになります。また、このほかにエレクトィブ(選択科目)を履修することができます。

なお、第2外国語は未修外国語ですので、コアの授業では基礎的な部分の学習に止まらざるを得ません。

当該言語の能力をより高めるために、2年次以降にエレクトィブ(選択科目)を履修することが大いに望まれます。

○第2外国語はコア(必修科目)の2単位を修得する必要があります。

○第2外国語のクラスは希望した言語に基づいて編成します。クラス編成上、第1希望にそえない場合があります。DA・

DBクラスはドイツ語、CA～CFクラスは中国語、FA・FBクラスはフランス語、KA・KBクラスは韓国語となっています。

※なお、決定された第2外国語は、変更することができません。

③文化事情【ドイツ文化事情・中国文化事情・フランス文化事情・韓国文化事情】

第2外国語として学習する、ドイツ語・中国語・フランス語・韓国語、これらの言語の背景にある文化や風俗、人々の生活などについて学ぶ科目です。選択必修科目ですので、ドイツ文化事情・中国文化事情・フランス文化事情・韓国文化事情の中から1科目を選択して履修してください。半期科目のため、春学期或いは秋学期のいずれかで受講することになります。

なお、できる限り第2外国語で選択した言語の文化事情を履修するようにしてください(例:ドイツ語を選択した場合はドイツ文化事情を履修)。

○学籍番号が奇数の人は春学期に、偶数の人は秋学期に履修してください。

④エレクトィブ(選択外国語科目)

エレクトィブはコアを学習しながら、あるいはコアを学習した後、さらに各技能のレベルを高めるための科目となっており、豊富な教員を用意し、少人数クラスで多種多様な授業を行います。パソコンや視聴覚機器などを使用した科目も開講しています。

授業科目の概要

教養教育科目

経営学部共通

健康総合科学科目

健康総合科学では各種スポーツの「実践」と「理論」により、健康の価値と運動の楽しさを体験的に認識することによって健康の自己管理能力を養い、それぞれ各人の能力にあった運動を生涯スポーツとして確立し、広く社会に貢献しうる人材の育成を目的としています。スポーツ科学では「実践」により皆さんができるだけスポーツに親しむことを望んでおり、健康総合論では「理論」によって健康に関する諸問題を医学面、あるいは運動面から総合的にアプローチしていきます。

○スポーツ科学I・IIは必修科目ですので、2単位を修得しなければいけません。

○第1週目は授業内容などのガイダンスを行いますので、所定の教室に集合してください。

既往症、現在症などで運動制限をしなければいけない場合	第1週目の授業時に担当教員に必ず申し出る
見学を余儀なくされた場合	担当教員に申し出る (長期に渡る場合は、診断書などを提出)
試合などで休む場合	前もって担当教員に申し出る
天候不順の場合	授業変更は体育館事務室前に掲示

○更衣は指定場所で行い、衣服などの荷物を各競技場に持っていき、各自で管理してください。そのため、貴重品はできるだけ持ってこないようにしてください。

海外事情科目

海外の国に実際に足を踏み入れ、今まで学習してきた外国語を実際に使ってみることによって、新たな経験を積み、視野を広げることになります。

海外事情科目は、本学が行う「海外語学研修」をその内容としています(詳細については、P.27参照)。

授業科目の概要

専門教育科目

経営学科(2013年度以降入学生)

(1)専門学科を学ぶにあたり

経営学科の専門科目は次の5つに分類されています。

- ①基礎科目…総合的な基礎科目や各管理論などからなる基礎科目です。
- ②応用科目…基礎科目をベースとして、経営学について目的に応じて学ぶための専門科目です。なお、応用科目Ⅱ群は、商学部、経済学部との共通科目です。3学部いずれの学部に所属する学生も受講可能です。
- ③演習・外国語科目…演習科目は、経営学の学び方を学ぶ基礎演習とより深い専門性を養う専門演習です。卒業論文も演習科目に含まれます。外国語科目はビジネスに必要な英語力を養うビジネス英語です。いずれも、ビジネス界で活躍するには必須のコミュニケーション力、英語力を身につけるための科目です。
- ④実習科目…経営管理に関する実践的な科目です。基礎科目や応用科目で学んだ知識が実践でどう活かされるのかを体験してください。
- ⑤キャリア・デザイン科目…就職を意識した科目です。

以上の①～⑤の分野から卒業要件を満たすように科目を修得しなければなりません。なお、キャリア・デザイン科目を除いた専門分野で最低76単位修得しなければなりません。各分野で指定されている単位数は54単位です(P.33参照)。そのため、残りの22単位はそれぞれの興味と関心にしたがって、自由に履修を行うことができるようになっています。

(2)基礎科目

専門教育科目の各分野を学ぶにあたっての基礎となる科目といえます。

(3)応用科目

幅広い応用科目は、コース制を導入することによって、多様な関心に応えるとともに、体系だった履修ができるように配慮されています。 ⇒P.51～

経営学科(2013年度以降入学生)の設置コース

組織マネジメントコース
生産マーケティングコース
会計コース

(4)演習・外国語科目

必修科目である基礎演習は、経営学部で応用科目や専門演習を履修していくための基礎的な力を養う科目です。資料の集め方やまとめ方など、経営学部で学んでいくために不可欠な基礎を学びます。

専門演習は、自主的に専門領域を選択し、より深く学び、研究する科目です。原則として、1人の先生から2～4年次の間で2年半にわたって少人数で指導を受けます。通常の講義と違い、主体的に学びのテーマ(研究テーマ)に取り組み、先生からアドバイスを受けます。自ら学ぶ姿勢を重視して、卒業論文の完成を目指します。

(5)演習科目

実習科目は、少人数教育により実際にビジネスの世界で生じる様々な問題を解決する能力を身につけることを目的としています。したがって本科目を履修することによって、企業、組織の現場で理論や知識がどのように活かされ、応用されているかを知ることができます。

(6)キャリア・デザイン科目

キャリア・デザイン科目には、①キャリア・デザインⅠ～Ⅵ、②ビジネス能力、③インターンシップ(P.28参照)、④基礎経営実務(P.27参照)があります。①は就職活動で受験する必要がある各種試験に必要な知識を身につけるための科目です。②、③は卒業後、即戦力として活躍することのできる能力を身につけるための講座です。ただし、③は履修制限単位数には含まれません。

授業科目の概要

専門教育科目

現代企業学科(2008年度以降入学生)

(1)専門学科を学ぶにあたり

現代企業学科の専門科目は次の5つに分類されています。

- ①基礎科目…総合的な基礎科目や各管理論などから成る基礎科目です。
- ②応用科目…基礎科目をベースとして、経営学について目的に応じて学ぶための専門科目です。
- ③実習科目…経営管理に関する実践的な科目です。
- ④演習科目…経営学の学び方を学ぶ基礎演習とより深い専門性を養う専門演習です。卒業論文も含まれます。
- ⑤企業事情科目…就職を意識した科目です。

以上の①～⑤の分野から卒業要件を満たすように科目を修得しなければなりません。なお、専門分野で最低76単位修得しなければなりません。各分野で指定されている単位数は60単位です(P.41参照)。そのため、残りの16単位はそれぞれの興味と関心にしたがって、自由に履修を行うことができますようになっています。

(2)基礎科目

専門教育科目の各分野を学ぶにあたっての基礎となる科目といえます。

(3)応用科目

幅広い応用科目は、履修コース制を導入することによって、多様な関心に応えるとともに、体系だった履修ができるように配慮されています。

現代企業学科の設置コース

企画・開発・起業コース
現代企業システムコース
国際ビジネスコース
会計コース
ビジネス科学コース

(4)実習科目

実習科目は、少人数教育により実際にマネジメントに関する様々な問題を解決する能力を身につけることを目的としています。したがって本科目を履修することによって、企業、組織の現場で理論や知識がどのように生かされ、応用されているかを知ることができます。

(5)演習科目

必修科目である基礎演習は、経営学部で学んでいくための基礎的な力を養う科目です。資料の集め方やまとめ方など、経営学部で学んでいくために不可欠な基礎を学びます。

専門演習は、自主的に専門領域を選択し、より深く学び、研究する科目です。原則として、1人の先生から2～4年生次の間で2年半にわたって少人数で指導を受けます。通常の講義と違い、主体的に学びのテーマ(研究テーマ)に取り組み、先生からアドバイスを受けます。自ら学ぶ姿勢を重視して、卒業論文の完成を目指します。

(6)企業事情科目

企業事情科目には、①特別経営講座A・B・C、②基礎経営実務(P.27参照)、および③インターンシップ(P.28参照)があります。これらは、いずれも即戦力として活躍することのできる経営学部の卒業生を養成するための講座です。

※①は、履修制限単位数に含まれます。②、③は、履修制限単位数に含まれません。

コース制・履修モデル

コース制(2013年度以降入学生対象)

1. 組織マネジメントコース

① コース概要

現代社会は、会社や国の省庁、地方自治体、学校などをはじめとする多くの組織によって成り立っています。私達も、会社員として、学生として、また市民として、これらの組織に属しながら生活を送っています。私達が密接に関わっている組織の特徴や性質を理解することは大変重要です。

本コースでは、組織の特徴を理解し、どのように管理したらよいのかを次の3点に主眼を置きながら深く学び、実践的な力を身に付けることを目標とします。

- ① 組織を作り上げ、作り上げた組織を動かす仕組みについての理解を進める。
- ② 組織を取り巻く環境の変化にどのように対処すればよいのかについて学ぶ。
- ③ 環境問題や技術革新、企業倫理のような現代的課題を取り上げ、そこで組織が成果を上げるためのマネジメントについて学ぶ。

② コース指定科目

組織マネジメントコースでは、以下のコース指定科目の中から12単位(6科目)以上を修得することを卒業要件としています。

配当年次の高い科目は、応用度の高い科目となります。3年次配当の科目履修にあたっては、これまでの履修済科目を考慮した上で、計画的に履修するように心がけてください。

科目名の「I」および「II」は、連続性を表しています。同じ科目名のIを受講した後、IIを受講するようにしてください。IIはIの内容を前提として授業が進みますので、Iを未履修の場合、授業内容を理解することがかなり難しくなります。

配当年次	科目名			
2年	経営科学 I	経営科学 II	イノベーション論	コミュニケーション論
	環境ビジネス論	経営環境論	企画論	事業計画論
	企業倫理	コーポレート・ガバナンス	経営戦略 I	経営戦略 II
	経営統計 I	経営統計 II	リーダーシップ論	モチベーション論
	サービスマネジメント	プログラミング I	プログラミング II	データベース I
	データベース II	ベンチャービジネス論	バーチャルカンパニー IA	バーチャルカンパニー IB
	バーチャルカンパニー IIA	バーチャルカンパニー IIB		
3年	NPO経営論	組織論 I	組織論 II	ベンチャービジネス実践研究

コース制・履修モデル

コース制(2013年度以降入学生対象)

2. 生産マーケティングコース

1 コース概要

生産マーケティングコースは、企業の内部におけるモノの流れを中心に企業経営のメカニズムを学ぶコースです。このコースの特徴は次の3つの点にあります。

- ① 開発・生産・物流・販売というモノの流れを、それに沿った形で網羅的に配置された科目を受講することで体系的に学ぶ。
- ② グローバル化時代に応じて設置された多数の科目の受講を通じ、国際的なモノの流れを学ぶ。
- ③ 地域経済への貢献という視点から設置された中小製造業経営に関連する科目において展開される実践教育を通じ、理論と実践の両面から企業内のモノの流れを理解する。

2 コース指定科目

生産マーケティングコースでは、以下のコース指定科目の中から12単位(6科目)以上を修得することを卒業要件としています。

配当年次の高い科目は、応用度の高い科目となります。3年次配当の科目履修にあたっては、これまでの履修済科目を考慮した上で、計画的に履修するように心がけてください。

科目名の「Ⅰ」および「Ⅱ」は、連続性を表しています。同じ科目名のⅠを受講した後、Ⅱを受講するようにしてください。ⅡはⅠの内容を前提として授業が進みますので、Ⅰを未履修の場合、授業内容を理解することがかなり難しくなります。

配当年次	科目名			
2年	経営科学Ⅰ	経営科学Ⅱ	イノベーション論	環境ビジネス論
	企画論	経営工学	ロジスティクス論	経営戦略Ⅰ
	経営戦略Ⅱ	経営統計Ⅰ	経営統計Ⅱ	国際経営論Ⅰ
	国際経営論Ⅱ	国際マーケティング論	多国籍企業論	サービスマネジメント
	プログラミングⅠ	プログラミングⅡ	中小企業経営論	中小企業事例研究
	データベースⅠ	データベースⅡ	ベンチャービジネス論	バーチャルカンパニーⅠA
	バーチャルカンパニーⅠB	バーチャルカンパニーⅡA	バーチャルカンパニーⅡB	
	3年	グローバル戦略論	マーケティング戦略論Ⅰ	マーケティング戦略論Ⅱ

コース制・履修モデル

コース制(2013年度以降入学生対象)

3. 会計コース

1 コース概要

この社会では、いかなる活動を行うにも資金が必要となります。資金を適切に管理できなければ、その活動実体を存続させることは不可能です。資金の適切な管理に関する様々な知識や技法を習得するため、会計コースでは以下の3点をステップ・アップ方式で学習を進めます。

- ① 金の調達・運用とその結果の計算・記録方法を学びます。
- ② 記録されたデータから財務情報を作成・表示する方法を学びます。
- ③ 作成された財務情報を企業経営に活用する方法を学びます。

2 コース指定科目

会計コースでは、以下のコース指定科目の中から12単位(6科目)以上を修得することを卒業要件としています。

配当年次の高い科目は、応用度の高い科目となります。3年次配当の科目履修にあたっては、これまでの履修済科目を考慮した上で、計画的に履修するように心がけてください。

科目名の「Ⅰ」および「Ⅱ」は、連続性を表しています。同じ科目名のⅠを受講した後、Ⅱを受講するようにしてください。ⅡはⅠの内容を前提として授業が進みますので、Ⅰを未履修の場合、授業内容を理解することがかなり難しくなります。

配当年次	科目名			
1年	中級簿記Ⅰ	中級簿記Ⅱ		
2年	経営科学Ⅰ	経営科学Ⅱ	金融論	国際金融論
	経営統計Ⅰ	経営統計Ⅱ	原価計算Ⅰ	原価計算Ⅱ
	財務管理論Ⅰ	財務管理論Ⅱ	プログラミングⅠ	プログラミングⅡ
	データベースⅠ	データベースⅡ		
3年	会計監査	ファイナンス分析	管理会計Ⅰ	管理会計Ⅱ
	国際会計論Ⅰ	国際会計論Ⅱ	財務会計Ⅰ	財務会計Ⅱ
	財務諸表分析	上級簿記Ⅰ	上級簿記Ⅱ	